(資料2-1) 仙台堀川公園でのカルガモの繁殖状況 -その 1-

荒川洋一

仙台堀川公園で鳥の調査を続けていますが、今回は 2014 年にカルガモが何羽くらいヒナを育てたのかをご紹介しましょう。

図 1は、この 2 年半の仙台堀川公園のカルガモの数を月ごとに平均してみたものです。この数字にはヒナの数も親鳥と同様に含まれています。

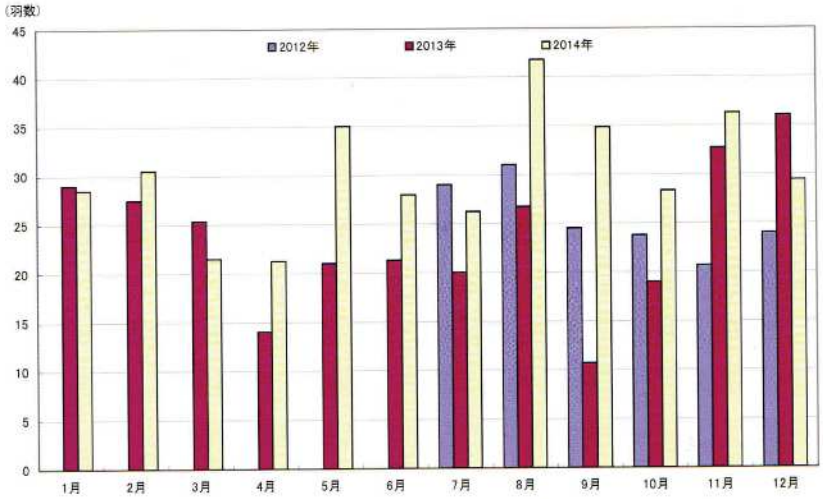

図 1 カルガモ生息数の推移

2013 年の調査は、調査日と次の調査日の間隔が約 10 日と長く、カルガモのヒナの成長を追跡する十分な記録がとれませんでしたが、2014 年には、調査日の間隔が約 7 日となりましたので、ヒナの成長をある程度追うことができました。その結果、表 1のように、のべ 8 グループの親鳥が子育てをしたことがわかりました。(A~H は発見順)

それでも、調査日と調査日の間が約 1 週間ありますので、いくつの卵から、いつ何羽のヒナがかえり、いつどういう理由で死に、いつ何羽が飛び立っていったのかなど詳細な変化についてはわかりません。

図 2 は調査日ごとのヒナの減少の様子を見たものですが、たくさんのヒナが生まれてまもなく死んでいったことがわかります。死亡の理由は、食べ物や病気などいろいろあるでしょうが、カラスにさらわれた、ねずみに捕っていかれた、親鳥につつかれて殺されたなど、ひな鳥が不幸に合う瞬間を目撃した人もいることがわかりました。ヒナにとっては、一人前になり飛び立っていくま

表 1 2014 年に孵化したカルガモのヒナ

	初認	ヒナ数	終認	ヒナ数	終認までの日数	状況
A	2014/4/22	9	2014/6/10	3	49	ほとんどが飛び立った
B	2014/5/8	7	2014/5/14	2	6	ヒナで全滅した
C	2014/5/13	11	2014/5/20	1	7	ヒナで全滅した
D	2014/5/14	3	2014/6/10	1	27	飛び立ち前にヒナで全滅した
E	2014/6/24	9	2014/8/25	1	62	1 羽のみ飛び立った
F	2014/7/1	5	2014/7/4	3	3	ヒナで全滅した
G	2014/7/23	3	2014/8/5	3	13	飛び立ち前に全滅したか
H	2014/8/11	7	2014/9/9	6	29	飛び立ったか

初認のヒナの数が少ないのは、初認に至るまでに既に死滅していたと考えられる

でに多くの試練があることを感じさせます。

カルガモのオスは、卵が生まれると、通常は子育てをメスに任せ、どこかに行ってしまいますが表 1 の A のヒナたちには大体 2 羽の親鳥が付き添っていました。そのせいかどうかはわかりませんが、A のヒナはほとんど全てが飛び立つことができたようです。A のヒナは図表では最後の数字が少なくなっていますが、成長の経過を見ていますと、死んでしまったとは限らず、十分大きくなったヒナが一部群れから分かれて行動をしていた可能性が強いと考えられます。

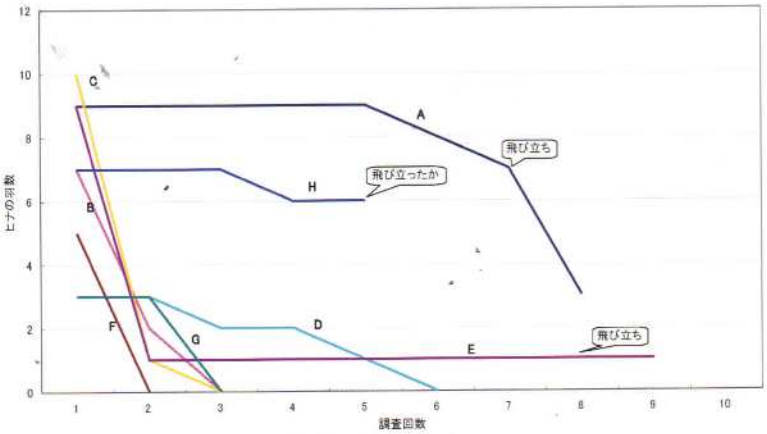

図 2　ヒナの発見時から最終確認までの推移

写真 1　5 月 10 日 A の親鳥とヒナ、だいぶ大きく育っている

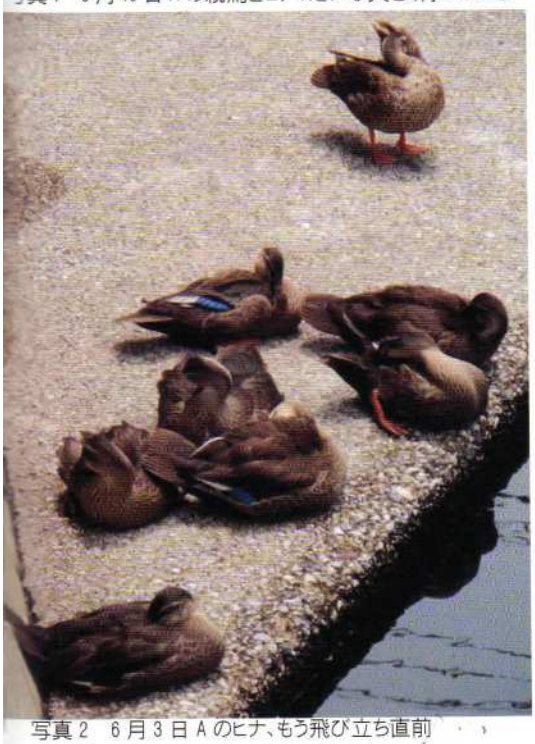
写真 2　6 月 3 日 A のヒナ、もう飛び立ち直前

一方 E では、ほとんどのヒナが生まれてすぐに死んでしまい、まだ 1 羽残っているのに親鳥がどこかに行ってしまいました。数日して親鳥は戻りましたが、一時的にしても親が戻るまで 1 羽だけで生き延び、無事飛び立ちました。

公園を行き交う人たちは、ヒナを見つけて成長を喜び、成長できなかったヒナに心を痛めますが、継続して広い視点から見てみますと公園のカルガモにも様々なドラマがあるようです。

次回は、これらのヒナたちが育った環境に注目してご報告します。

写真 3　6 月 27 日 E の親鳥とヒナ

写真 4　8 月 11 日ただ 1 羽生き残り飛び立った E のヒナ